

41

日本歯科口腔科学会創立総会議事録について

—学会名称に関する議事を中心に—

山口 秀紀, 加來 洋子, 下坂 典立, 鈴木 正敏, 渋谷 鉦

日本大学松戸歯学部歯科麻酔学講座

大正2年(1913年)11月,現在の東京大学大学院口腔外科学の前身である東京大学医学部歯科学教室に「歯科医局談話会」が設置された。同会は,その後「日本歯科口腔科学会」さらに「日本口腔科学会」と名称を改め,今日では日本医学会唯一の歯科関連学会(第31分科会)として医学・歯科医学の発展に貢献している。

当学会設立に関する資料として,大正8年3月28日,日本歯科口腔科学会発行『日本歯科口腔科学会会誌 第一号』(日本大学松戸歯学部歯学史資料室蔵書)がある。本会誌には,創立総会議事録として日本歯科口腔科学会創立総会(大正7年4月28日午後2時開会)の記録が詳細に記されている。今回,議事録の中から学会名称決定に関する内容を中心に報告する。

創立総会では先ず冒頭,座長を務める医学博士 石原 久から総会開催までの経緯について説明され,次いで幹事の榎本欣三から庶務会計報告されている。その後,起草委員の一人である渋谷義雄から会則原案に関して説明があり,会の名称については一番目に取り上げられている。まず学会名称として「日本歯口科学会」,「日本歯科口腔科学会」,「日本口腔病学会」の3つの案が提示され,その中でも「日本歯科口腔科学会」が最も適当ではないかとの意見が述べられている。座長の石原 久も渋谷の意見を後押しする様に「日本歯科口腔科学会ト言フノガー一番知巨ツテ穩当デアロウ……」と述べている。これに対し京橋区開業の小田定博は「歯科及ピロ腔外科ガ集ツテ口腔科学ト云フモノガ出来フノデハナイカ……口腔科ト云フノハ一体ドウ云フ風ナノモヤ原案デハ意味サレテ居ルノデゴザイマセウカ……」として「日本歯科口腔外科学会」の名称を提案している。この口腔外科という名称に関して,原案策定に携わった高橋直太郎は「昔カラロ歯科ト云フ名詞ガアル……口腔外科ト云フト範圍ガ狭クナリハセマイカ……歯科ト云フモノニ重キを置イテ続イテロ腔科ニナリマスト始メテ両者ノモノガ具体的に明カナリハシナイカト云フヨウナ意味デ私ハ歯科及ピロ腔科ト云フ事ノ原案ヲ維持シタイ考デアリマス……」とし,さらに当時東洋歯科医学校長であった佐藤運雄も「口腔外科デナシニロ腔ニハ内科的ノ疾病モアリマセウシ,ソレモ吾々ハ研究シタイノデアリマスカラロ腔ト云フ字ヲ入レルニシテモ外科ト云フ字ヲ入レタクナイト私ハ希望致シテ居リマス,……」と口腔外科の名称に反対している。

また,麴町区開業の石原金作は「学会ト云フ名称ハ最モ大雑把デアル方ガ宜シイ……」とし「日本口腔病学会」の名称を推し,小田定博もこれに賛同している。さらに小石川区開業の川合 渉は「東京ニ日本歯科医学会及日本歯科学会ト云フ色々ノ学会ガアリマシテ極メテソレニ類似シ易イヤウニ考マス……」とし,日本あるいは学会という言葉を避けた「中央歯科口腔科学協会」という名称を挙げている。同じく日本橋開業の小池子一も紛らわしい名称を避けるという理由から,大の字を付けた「大日本歯科口腔科学会」の名称を提案している。

さまざまな協議の末,提案された「日本歯科口腔外科学会」を除く5つの学会名称の中から多数決により決定されることとなり,結局は原案通り「日本歯科口腔科学会」が賛同者多数で採択されている。決定の際,川合 渉から多数決での選定のやり方について異議が述べられたことも議事録に記録されている。

なお,本会誌巻末には雑録として,歯科談話会会計報告書(大正6年度)および大正7年4月28日午後6時より芝公園紅葉館に於いて開催された歯科医局談話会・歯科口腔科学会懇親会の出席者70名の名簿と会計報告が記載されている。